

2021年5月14日

各位

会社名 マーチャント・バンカーズ株式会社
 代表取締役社長兼 CEO 一木 茂
 (コード3121 東証2部)
 問合せ先 取締役 CFO 兼財務経理部長 高崎 正年
 (TEL 03-5224-4900)

2021年3月期連結業績予想と実績値との差異及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2021年5月19日に公表しました2021年3月期の通期連結業績予想数値と、本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりご報告申し上げます。

記

1. 2021年3月期連結業績予想数値と実績値との差異 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(1) 差異の内容

	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	親会社株主に帰属 する当期純利益 百万円	1株当たり 当期純利益 円 銭
前回発表予想(A)	2,500	600	500	300	10円77銭
今回実績(B)	1,635	219	132	△44	△1円58銭
増減額(B-A)	△865	△381	△368	△344	
増減率	△34.6%	△63.5%	△73.6%	—	
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	2,448	215	108	83	3円00銭

(2) 差異の理由

当期におきましては、当社オペレーション事業全般、新型コロナウイルスの影響を受け、主力事業として取り組んでいたホテル事業からも撤退いたしました。非常に厳しい経営環境のなか、ホテル事業からの撤退に伴う費用を吸収したうえで、営業利益におきましては2.0%、経常利益におきましては22.9%、それぞれ前期に対し、増益を確保いたしました。

2021年3月期連結業績予想数値と実績値の差異につきましては、以下のとおりであります。

① 新型コロナウイルスによるオペレーション事業に対する影響

オペレーション事業におきまして、売上高850百万円、営業損失△80百万円を見込んでおりましたが、新型コロナウイルスの影響の長期化に伴い、ホテル事業からの撤退も行った結果、売上高649百万円、営業損失△92百万円となり、売上高△201百万円、営業利益△12百万円の差異となりました。

② マーチャント・バンキング事業における収益確保の取組み

マーチャント・バンキング事業におきまして、売上高1,650百万円、営業利益830百万円を見込んでおりましたが、売上高986百万円、営業利益487百万円にとどまり、売上高△664百万円、営業利益△343百万円の差異となりました。

(a) ステアブルコインの売上計上

2019年7月に手数料として受領した米ドル連動型ステアブルコイン200万枚(ステアブルコイン1枚=1米ドル)につきまして、現金化や流動性向上により、売上高210百万円、営業利益105百万円の計上を見込んでおりましたが、当期におきましては、84,133枚の現金化により、10百万円の売上計上に止まりました。残り1,916,877枚分につきましては、当該ステアブルコインを取扱う暗号資産

換所での売買状況が活発であるといえないことから、今期における売上計上を見合わせることにいたしました。

ステーブルコインにつきましては、2022年3月期におきましては、業績予想には見込まず、現金化のつど売上計上することといたします。

(b) 業務提携並びに新規事業

マーチャント・バンキング事業におきまして、提携業務による売上・利益の期待できるパートナーとの業務提携や、新規事業といたしまして、ブロックチェーン技術を活用したNFTプラットフォーム事業や不動産プラットフォーム事業を手掛け、安定的に確保できる不動産賃貸収入以外の収益確保をはかってまいりました。

これらの、不動産賃貸収入以外の新たな収益を確保する取組みとして、売上高720百万円、営業利益480百万円を見込み、所有不動産の売却も行いましたが、見込みどおりの成果に至らなかったため、売上高290百万円、営業利益240百万円にとどまり、売上高△430百万円、営業利益△240百万円の差異となりました。

業務提携やM&A、プラットフォーム事業につきましては、2022年3月期の業績に反映すべく、引き続き積極的に取組んでまいります。

2. 特別損失の計上

新型コロナウイルスの影響の長期化を鑑み、大型商業施設を中心にアパレルの販売プロモーション事業を行う株式会社ケンテンの超過収益力を保守的に見積り、減損損失として、27百万円を特別損失に計上いたします。なお、株式会社ケンテンは、株式会社ラファンと取り組むネット販売事業を強化してまいります。

以上